

## 令和 5 年度 学校評価報告書（総表）

| 1 学校の概要              |  |     |       |
|----------------------|--|-----|-------|
| 学校名                  | 筑波大学附属高等学校   | 校長名 | 藤生 英行 |
| 幼児・児童・生徒数（R6.3.1 現在） | 707  | 学級数 | 18    |
| 2 教育目標等              |  |     |       |
| ① 学校教育目標             | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自主・自律・自由をモットーとする。</li> <li>(2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。</li> <li>(3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。</li> <li>(4) 特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</li> <li>(5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</li> </ul>   |     |       |
| ② 学校経営方針             | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。</li> <li>(2) 筑波大学の附属学校として教育実習や教員免許状更新講習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。</li> <li>(3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことに努める。</li> </ul>  |     |       |
| ③ 重点目標               | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再検討</li> <li>(2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討</li> <li>(3) 教育活動の外部への発信</li> <li>(4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減</li> <li>(5) 保護者・地域住民との連携の強化</li> <li>(6) 情報セキュリティの強化</li> <li>(7) 中長期的な財政運営の検討</li> </ul>  |     |       |
| ④ 前年度（令和 4 年度）の成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スクール・ミッションとスクール・ポリシーを策定した。</li> <li>(2) 将来構想に関する情報収集に留まり大きな進捗はなかった。</li> <li>(3) 教育活動の外部への発信について改善に向け検討中。</li> <li>(4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減について、担当の組織を作り、検討を開始した。</li> <li>(5) 地域の関係機関と連携し、災害発生時の対応を確認するための、地域住民との集会を開催し、災害発生時を見据えた地域との連携を強化した。</li> <li>(6) お茶の水女子大学附属高等学校と連携してのキャリア教育を継続すると共に、「総合的な探究の時間」ではチューターに卒業生を招き、大学での勉学・研究についても学ぶ場とした。</li> <li>(7) 生徒の個人情報保護など情報セキュリティの強化に向け、校務支援システムを活用するなどの対策を実施した。</li> </ul> |     |       |

### 3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) 入学者選抜に関わる業務について、とくに Web 出願システムの取り扱い要領について改善した。
- (2) 校内に将来構想委員会を組織し、附属学校将来構想検討委員会との連携、校務整理、行事検討、カリキュラムマネジメント等をテーマに、将来構想に関する情報収集や研究会を行い、将来構想の検討に向けた意識を高めた。
- (3) 教育関係者による見学を積極的に受け入れたり、研究大会で授業実践を報告したり、教育活動の外部への発信ができた。
- (4) 部活動の活動延長ルールを見直して、教員の負担軽減に一定の効果を得たものの、校務全体の仕事量の軽減は今後の課題である。
- (5) 保護者や地域の方からの問い合わせや相談の電話に、丁寧に対応した。
- (6) 情報セキュリティについては、「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、事故の防止に努めた。
- (7) 財政運営の検討については、危機的な状況であることを認識しているが、改善策の検討が不十分である。

### 4 令和6年度の学校課題

- (1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再確認
- (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減
- (5) 保護者・地域住民との連携の強化
- (6) 情報セキュリティの強化
- (7) 中長期的な財政運営の検討

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 入学者選抜に関わる業務について、作業手順を見直して、効率化をはかるとともに、ミスの起こりにくい体制を構築する。
- (2) 将来構想委員会において、小中高一貫教育を活かした本校のあり方に関する検討を進める。
- (3) 各教科・総合的な探究の時間の実践研究を進めながら、外部への発信方法の検討を継続する。
- (4) 校務の効率化や教職員の負担軽減について、引き続き検討する。
- (5) オンラインの保護者向け掲示板システムを、学校からの情報発信や保護者との連携に役立てる。学校行事を通して、地域住民との円滑な関係につなげる。
- (6) 校務支援システムを活用しながら、情報セキュリティ強化対策の更なる改善について検討する。
- (7) 大学からの運営費交付金、学年費からの教育環境改善経費、後援会からの寄付等、各種財源を見渡しての中長期的な財政運営について検討する。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- ・「筑波大学附属高等学校研究紀要 第65巻」
- ・「総合的な探究の時間「筑波スタディ」報告集」

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 5 年度

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 筑波大学附属高等学校 |
|-----|------------|

| 項番     | 評価項目   | 具体的評価結果  |
|--------|--|--|
| 1-1-3  | 体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況 | 各教科の授業において、実験や実習を通じた体験的な学びや、話し合いを通して、自分の考えを深めたり発表したりする学びを引き出す実践を展開できた。また、総合的な探究の時間においては、1年生が基礎的な研究手法を学び、2年生は全員が論文を執筆して、問題解決的な学習を深めた。 |
| 5-1-2  | 家庭や地域との関係機関、団体との連携の状況                        | 「入構ガイドライン」を遵守して、入構者の管理を徹底した。また、学校行事のときは、その行事の特性に応じた管理手法を関係機関・団体と密接に連携して検討した。その結果、安心安全な教育活動を継続できた。                                    |
| 9-1-2  | 学校の状況を踏まえ重点化された短（中）期の目標等の設定の状況               | 他校でも活用できる「総合的な探究の時間」の指導プログラムの開発を進めた。全教員が指導や運営に関わることによって、指導プログラムを改善することができた。  |
| 10-1-1 | 学校に関する様々な情報の提供状況                             | 学校見学会や学校説明会の機会を複数回設け、情報発信に努めた。   |
| 10-1-3 | 児童生徒の個人情報の保護の状況                              | 「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、生徒の個人情報保護に取り組んだ。   |
| 11-1-2 | 地域住民から寄せられた具体的な意見や要望の把握・対応の状況                | 電話などによって地域住民から受ける意見や要望については、事務室、総務部、管理職が連携して、可能なものについては迅速な対応を行った。地域住民との会合など、積極的に意見や要望を聞く機会がもてていないことは課題である。                           |
| 14-1-1 | 入学者選抜  | Web 出願システムの取り扱い要領を見直して、事前に十分確認して、ミスを未然に防ぐ体制の構築に努めた。  |
| 14-1-4 | 教員養成・教師教育                                    | 教育実習では、きめ細かな指導をすることができた。研究大会では、情報交換会を企画するなど、教員同士がそれぞれの教育現場の視点から学び合える場を提供した。  |
| 14-1-5 | 国際交流・国際貢献                                    | コロナ禍の影響が残っており、渡航できないものは、国内での学習会やオンライン交流に替えた。プリンスエドワードアイランド大学研修（UPEI）は渡航して実施することができた。これらの機会を通じて、参加生徒の国際感覚を育むことができた。                   |